

プレFDとは

プレFD (Faculty Development) とは、これから大学教員になろうとする大学院生・ポストドクター等のキャリア支援を目的とした活動のことです。教育開発・学習支援センターでは、2022年度より博士後期課程在学中の学生に向けてプレFDプログラムを実施しています。

本号では、2024年度プレFDプログラムの実施報告と、本制度修了者の声をご紹介します。



2024年度プレFDプログラム実施報告

2024年度は、1名の利用者・1名の修了者が輩出されました。以下、実施概要をご紹介します。

①学部授業参観

以下の授業を参観し、授業実施における工夫や手法等を体験しました。

「米文学史B」 小島尚人（文学部准教授）：2024年10月2日（水）実施

②Lステゼミ

授業運営の実践の場として、Lステゼミの講師として登壇しました。

日 時：2024年7月12日（金）13:30～14:50（80分）[対面実施]

テーマ：映画からフェミニズムを考えよう

内 容：「フェミニズム」とは、あらゆる性差別を無くそうとする、思想・社会運動を指します。本講義では、様々な映画作品を題材に、フェミニズム的表現とは何かを考えていきます。

参加者数：13名



Lステゼミ実施の様子

③授業リフレクションのための学生による授業参観

事前に研修を受けた学生FDスタッフに上記②のLステゼミを参観してもらい、授業の進め方等に関する学生視点の意見のフィードバックを実施しました。



「プレFDプログラム」修了者インタビュー

2024年11月29日（金）に、2024年度本プログラム修了者へインタビューを実施しました。

高橋教授の教員目線のアドバイスや、経験談も交えながら和やかな雰囲気で行われました。

今回伺ったご意見等は、今後の本プログラムの改善と発展に活かしていきます。

対象者：橋本 美波さん（国際文化研究科国際文化専攻博士後期課程2年）

インタビュアー：高橋五月教授（人間環境学部・LFC 学習サポートユニット・サブリーダー）

■インタビュー内容（抜粋）

（1）参加に至った背景と動機

元々、プレFDプログラムで講義を実施したことのある方が知り合いにおり、本プログラムに興味を持っていました。また、将来は教職に携わりたいと考えていて、教員採用の履歴書に「教職歴」として記載できる、と思ったことが参加の動機です。

（2）これまでの教育歴

塾講師等の経験も含め教育歴はなく、自身の中で全く新しいことに取り組んでいます。

（3）各取り組みを終えての感想

◆学部授業参観

過去にベストティーチャー賞を受賞された教員による、学生から人気のある授業を見たいと思い本授業の参観を希望しました。100分間の授業の一連の流れを体験し、非常に参考になりました。また、課題の出し方は、リストの中から好きな作品の一つ選んでレポートを書く形式にしている、学びを自分ごと化できるような工夫を感じることができました。今後本制度を利用される方は、授業を参観する前に、大学で教えるということの定義を自分なりに考えておいて、その仮説を基に参観するのが良いと思います。

◆Lステゼミ

本分野を専攻していない、主に学部生に対してどう説明するか試行錯誤しながら楽しく準備しました。今回のゼミが学生に対する講義内容として適切だったのが心配でしたが、ゼミが終わった後に参加学生から「また橋本さんの授業を受けたい」とコメントをいただくことができ、大変嬉しかったです。

◆授業リフレクションのための学生による授業参観

熱意ある学生スタッフの方々が担当してくださり、積極的にフィードバックをいただきました。内容としては、投影していたスライド資料の文字が小さいと指摘があったため、今後は会場のスクリーンの大きさを事前に想定する必要があると気づきました。また、講義の進め方について、今現在何について話しているのかを都度示したことで、内容を理解しやすかったとコメントがあったため、自身の意図と講義を受ける学生との感覚のすり合わせができ良かったです。



インタビューの様子（左：橋本さん、右：高橋教授）

（4）プログラムの改善点・その他サポートの要望

- ・Lステゼミについて、学会での発表と異なり、「学生に教える」という行為が不慣れであり不安感があったため、ゼミを実施する前に教員目線のアドバイスをいただける機会があるとありがたいと思いました。
- ・今回のインタビューで教員の方とざっくばらんに話す機会をいただき様々な気づきがあったため、その気づきを踏まえて改めて授業を参観したり、講義をしたいなと思いました。可能であれば、Lステゼミに2回目以降も登壇できる機会を設けていただきたいと思います。
- ・プレFDコミュニティのようなイメージで、自身と同じ立場の人と知り合いになれるような場があると良いなと思いました。